

令和6年度第2回 知多市地域公共交通会議 要旨

○日 時 令和6年11月27日(水) 午前10時～午前11時30分

○場 所 知多市役所 3階 協議会室

○出席委員 20名

- ・ 知多市 副市長 立川 泰造
- ・ 八幡コミュニティ 会長 伊達 八穂
- ・ 南粕谷コミュニティ 会長 鈴木 孝昭
- ・ 旭東コミュニティ 会長 門井 真二郎
- ・ 知多市社会福祉協議会 会長 渡辺 正敏
- ・ 知多市観光協会 会長 酒井 清
- ・ 知多市商工会 青年部長 上村 卓也
- ・ 名城大学理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授 松本 幸正
- ・ 知多乗合株式会社 代表取締役社長 金森 隆浩(随行:橋本 大輔)
- ・ レクスル株式会社 代表取締役 鶴田 誠(代理:服部 佳代)
- ・ 公益社団法人愛知県バス協会 専務理事 小林 裕之
- ・ 愛知県タクシー協会 知多支部長 藤田 和弘
- ・ 名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部 地域連携部交通サービス担当課長 高井 勇輔(代理:竹内 勲)
- ・ 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事 桑山 忍
- ・ 中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官 宮川 高彰(代理:渥美 宏)
- ・ 愛知県都市・交通局 交通対策課 担当課長 石屋 義道(代理:常本 久美)
- ・ 愛知県知多警察署 交通課長 佐藤 賢治
- ・ 知多市 都市整備部長 細川 賢弘
- ・ 知多市 福祉子ども部長 花井 佳世
- ・ 知多市 環境経済部長 竹内 和彦

○欠席委員 3名

- ・東部コミュニティ 会長 谷口 静子
- ・岡田コミュニティ 会長 竹内 淳介
- ・愛知県知多建設事務所 維持管理課長 伴野 誠司

○傍聴者 12名

○事務局 7名

- ・企画部長 林 和宏
- ・市民協働課長 平岩 佳代
- ・市民協働課 青木 優
- ・市民協働課 竹内 俊介
- ・市民協働課 宮崎 彩寧
- ・市民協働課 小林 宙
- ・都市計画課長 市川 隆人

会議の経過及び発言の要旨

1 あいさつ

【会長】

日頃から市政全般にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

本日は、協議事項のひとつとして、知多市地域公共交通計画策定等支援業務の進捗状況を議題として取り上げる。第1回の会議で確認いただいた、市民アンケートなどの実態調査の結果について説明し、今後の事業の進め方について協議していただく。前回同様、お気づきの点など積極的にご意見をいただきたい。

2 協議事項

(1) 知多市地域公共交通計画策定等支援業務委託の進捗状況について（資料1）

【事務局】

- 地域公共交通計画、策定に向けたスケジュールについて（資料1－1）

- ・地域公共交通計画は、地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにするマスタープランとして役割を果たすもので、地域公共交通会議で協議しながら作成していくもの。
- ・計画は2年にわたって作成し、令和8年3月の完成を予定している。計画期間は令和8年4月から令和13年3月までの5か年となる。

●アンケート調査等の結果について（資料1－2）

- ・6月から10月にかけて取り組んだバス乗降調査やバス利用者アンケート、市民アンケート調査等の結果について、概要版としてまとめた内容に沿って説明するもの。

① バス乗降調査

- ・調査期間は6月。調査員がバス車両に乗車する方法で調査を行った。
- ・調査対象は、あいあいバス3コース及び路線バス4路線の平日休日の各1日、全便全利用者で、回収結果は1,629通であった。
- ・利用目的について、平日はあいあいバスで「買物」、路線バスで「通勤」の割合が高く、休日は全ての路線で「買物」が高くなっている。
- ・乗り継ぎについて、平日休日ともに、あいあいバスで「乗り継ぎしない」、路線バスで「鉄道」の割合が高くなっている。
- ・利用頻度について、平日はあいあいバスで「週に数回」、路線バスで「ほぼ毎日」の割合が高く、休日は全ての路線で「ほぼ毎日」の割合が平日より低くなっている。

② バス利用者アンケート調査

- ・調査期間は6月。調査員がバス車両に乗車した際に調査票を配布し、回答用紙の返送又はウェブ回答による方法で調査を行った。
- ・調査対象は、あいあいバス3コース及び路線バス4路線の平日休日の各1日、全便全利用者で、回収結果は423通であった。
- ・利用目的について、バス利用者の合計では「通勤」が約32%、「買物」が約26%となっている。
- ・利用頻度について、バス利用者の合計では「月に数回」が約31%、「ほぼ毎日」が約30%となっている。
- ・利用したバスについて、現在の満足度とこれからの重要度を回答してもらい、各数

値をクロス集計した結果、あいあいバスは「運行本数」「最終バスの時間帯」「運行ルート」「自宅から最寄りのバス停までの距離」「時刻表通りの発着」の5つ、路線バスは「運行本数」「最終バスの時間帯」「運賃」「乗り継ぎの際の待ち時間」の4つが、満足度が低く重要度が高い項目となっている。

③ 市民アンケート調査

- ・調査期間は8～9月。郵送で調査票を配布し、回答用紙の返送又はウェブ回答による方法で調査を行った。
- ・調査対象は15歳以上の知多市民2,000人で、回収結果は788通（回収率は39.4%）であった。
- ・自家用車の利用頻度について、全ての世代で「ほぼ毎日」が高く、30歳から64歳までは特に高くなっている。
- ・運転免許返納後の移動手段について、利用したい移動手段は「あいあいバス」が約67%、「名鉄電車」が約63%となっている。
- ・普段の外出で困っている程度について、移動目的全てで「困っていない」が高くなっているが、駅への移動は「困っている」が11.4%、「やや困っている」が20%と他の移動目的と比べて高くなっている。
- ・公共交通の利用頻度について、鉄道は「年に数回程度」が48.5%、「月に数回程度」が17.3%、その他の交通機関は「利用していない」が70%を上回っている。
- ・公共交通の満足度について、鉄道は「満足」が18.2%「ほぼ満足」が50.8%、その他の交通機関は「不満」「やや不満」が50%を上回っている。
- ・公共交通を利用したいと思える（不満が解消する）内容について、鉄道は「運賃がもっと安ければ良い」が高く、その他の交通機関は「自動車が運転できなくなれば利用する」が高くなっている。
- ・市と利用者の負担のあり方に対する考えについて、合計では「市の負担、利用者の負担ともに現状のままでよい」が20.1%、「市の負担を抑えるために利用者の負担を増やした方がよい」が17.7%、「市の負担を増やし、運行内容を充実したほうがよい」が18.1%、「判断できない」が36.9%となっている。

④ 65歳以上市民アンケート調査

- ・調査期間は8～9月。郵送で調査票を配布し、回答用紙の返送又はウェブ回答によ

る方法で調査を行った。

- ・調査対象は65歳以上の知多市民1,000人で、回収結果は530通（回収率は53%）であった。
- ・自家用車の利用頻度について、合計では「ほぼ毎日」が51.8%、「週に2～3回程度」が26.3%となっている。
- ・運転免許返納後の移動手段について、利用したい移動手段は「あいあいバス」が約60%、「名鉄電車」が約49%、「家族や知人の送迎」が約48%となっている。
- ・普段の外出で困っている程度について、移動目的全てで「困っていない」が高くなっている。
- ・経路、ダイヤ、乗り場などを調べる手段について、合計では「手持ちの路線図・時刻表」が27.7%、「駅やバス停に掲示された路線図・時刻表」が23.1%、「スマートフォン」が31.6%となっている。
- ・バスの利用頻度について、路線バス、あいあいバスともに「利用していない」が高くなっている。
- ・バスの満足度について、路線バス、あいあいバスともに「やや不満」「不満」が約54%を占めている。
- ・公共交通を利用したいと思える（不満が解消する）内容について、路線バス、あいあいバスともに「自動車が運転できなくなれば利用する」が高くなっている。
- ・市と利用者の負担のあり方に対する考えについて、合計では「市の負担、利用者の負担ともに現状のままでよい」が20.6%、「市の負担を抑えるために利用者の負担を増やした方がよい」が17.5%、「市の負担を増やし、運行内容を充実したほうがよい」が17.7%、「判断できない」が37%となっている。

⑤ 中高生アンケート調査

- ・調査期間は9～10月。ウェブ回答による方法で調査を行った。
- ・調査対象は市内中学校3年生と高校1年生から3年生までで、回収結果は中学3年生が545通、高校生が691通であった。
- ・晴れた日の通学の移動手段について、高校生は「自転車」が90%を上回り、市外在住の高校生については「名鉄電車」も60%を上回っている。
- ・雨や雪の日の通学の移動手段について、高校生は「自転車」が50%以下で、「徒

歩」「家族や知人の送迎」の割合が増えている。また、市外在住の高校生は「あいあいバス」が約17%となっている。中学生は基本的に「徒歩」「自転車」で、雨と雪の日は「家族や知人の送迎」が約37%となっている。

- ・普段の外出で困っている程度について、「不満」「やや不満」の割合が比較的高い移動目的は中学生が「駅への移動」、市内在住の高校生が「飲食店・娯楽施設への移動」、市外在住の高校生が「学校への移動」となっている。
- ・進路を考える際、学校や就職先まで公共交通でアクセスできるかどうかを重視するかについて、中学生、高校生ともに「とても重視する」「やや重視する」が76%を上回っている。
- ・どのような公共交通だったら地域に住み続けたいと思うかについて、「通勤・通学するための移動手段が充実している」が群を抜いて高くなっている。

●知多市の地域公共交通の現状整理について（資料1－3）

- ・現在取りまとめている市の地域概況及び上位関連計画の整理、地域公共交通の現状分析のデータ等を経過報告資料として説明するもの。
- ・知多市の現状は、市の概況として人口推移のグラフ、人口密度や高齢者人口など各条件と公共交通網の整理、通勤通学特性、トリップ特性を記載している。
- ・上位関連計画は、第6次知多市総合計画、知多市都市計画マスタープラン、知多市立地適正化計画、第4次知多市障がい者計画、第3次知多市環境基本計画における公共交通の位置づけや関連性を計画ごとに記載している。
- ・新たな技術を活用した取組事例は、自動運転バスなど、他の自治体の取組み事例についてまとめている。

●今後の進め方

- ・調査結果等のデータをもとに地域公共交通を取り巻く課題を整理し、目指す将来像や基本方針等の設定、目標を達成するために行う事業等について検討し、計画の素案を取りまとめ、第3回会議で皆様に提示する予定。
- ・交通事業者や関係者へのヒアリング調査を12月頃に実施し、その結果についても計画素案に反映する。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

一般の方に比べて、中高生のほうが普段の外出で困っている割合が高いと感じたが、居住地、通学の移動手段の回答はどうか。若者に住み続けてもらうためには普段の移動で困らない環境を作ることが大切であると思われるので、そういった視点も持ちながら分析を進められたい。

【事務局】

通学の移動手段として、自転車、徒歩の割合が高いが、市外の高校生や雨の日などは、バスを利用したいと思う生徒も多いと把握している。バス乗降調査の際にも、「朝倉駅前」バス停から多くの高校生があいあいバスに乗車し、「寺本駅東」バス停でもバス待ちの高校生が多く、混雑しているという意見があった。今後、アンケートのクロス集計をして、より明確に問題が見えるようにしていきたい。

【副会長】

中高生を対象としたアンケート調査は特徴的で、実施した自治体は少ないため、非常に重要だと思う。課題が浮き彫りになるよう、さらなる分析を進められたい。

【委員】

今回の結果は、アンケートを返してくれた人の意見だけで、返していない人の意見もある。通勤、通学のほかに、日常生活での移動もあるため、市内で買物などが出来る環境づくりをすればまちの活性化につながるのではないかな。

地元の高齢者からはバス停が遠いなどの声もあり、もっと気軽に高齢者がバスを利用できるようになればフレイル予防につながるのではないかな。

アンケート結果は理解できるが、バスを利用できないため、諦めて返さなかった人もいることも考えて、外出しやすい環境づくりや、消費を促せるようなまちづくりを考えていければよい。

【事務局】

調査票の回収率は、市民アンケート調査が39.4%、高齢者アンケート調査が53%となっており、ある程度の傾向は把握できると思われる。来年度に開く市民ワークショップはオープン型にして、広く市民の意見を取り入れた計画にしたいと考えている。

高齢者の移動については、バスはまちづくりと一体と考えているので、まちの形状が変われば、それに沿った利便性の良いバスルート等に見直したいと考えている。引き続き、状況を見ながら適宜検討していきたい。

【副会長】

利用の有無を問わず意見が届いていると思っているが、バスの利便性、空白地、カバー率などで回答率を算出するなど、検証していただきたい。

通勤通学のための交通も必要だが、市内を柔軟に動き回れるような交通も必要で、まさに地域公共交通計画でめざす姿となる。市内を自由に移動できるような環境づくりを行うことで、高齢者のフレイル予防につなげるということも、計画の目標の一つとしてあげられるかもしれない。そのような内容が課題として浮き彫りになれば、計画に目指す姿として掲げ、そういう移動を支える手段を構築するといった方向性になると思われる。何を望まれているのかをアンケート結果からしっかり分析していくと良い。商業の活性化につながる交通も確かに重要なので、アンケート結果からそういう姿が描ける課題が出てくると良い。

また、現況整理（資料1－3）の2ページに人口密度と公共交通利用圏域図があり、人口密度の高いところは、公共交通を利用できる範囲として概ねカバーできていることが分かるが、全てではない。5ページの図を確認すると、公共交通でアクセスできる主要施設についても全てをカバーできている訳ではない。交通圏域から外れている地域の交通手段をどうするか、交通圏域内でも利便性が低いところをどうするかが、これからの大きな課題になる。

新たな技術を活用していくのは、かなり中長期の計画になるが、その部分も公共交通計画の中で明らかにしていく必要がある。

【委員】

利用者アンケートについて、利用者の満足度を上げるため、利用者の不満点を把握して改善することが大事だと思う。

【事務局】

概要版（資料１－２）の７、８ページに満足度と重要度を掛け合わせたグラフがあり、重要度が高く満足度が低いものは重点的に見ていかなければいけないと考えている。自由意見の内容も参考にしながら計画にどう落とし込むかを検討していきたい。

【副会長】

７、８ページのグラフの左上、重要度が高く満足度が低い項目は早めの改善が求められるところである。全体を通して運行本数や最終バスの時間帯が目立つが、改善するのは簡単ではない。特徴的なものとして、南部コースの定時性やバス停位置があり、ルートやダイヤの見直しを求められている可能性が高い。また、佐布里線・朝倉団地線では乗り継ぎの待ち時間の改善が求められているが、電車との接続に問題はあるか。

【事務局】

２年前に特急電車との接続を考慮してダイヤ改正をしたが、このような結果になったので、さらに分析して不満の原因を確認していきたい。

【副会長】

運行本数や最終バスの時間帯はドライバー不足や経費等に関わってくるので簡単ではないが、ダイヤの見直しは比較的取り組みやすいので対応できる可能性がある。

概要版（資料１－２）の12ページ、公共交通を利用したいと思える内容で「自動車が運転できなくなれば利用する」という回答がほとんどであるが、自動車の運転ができなくなった時はバスにも乗れなくなっていると想像できる。外出できない状況をいかに防ぐかも地域公共交通計画の一つの大きな目標と考えたい。

【副会長】

今一度アンケートの結果を確認していただき、地区の方々等の意見も含め分析の要望等について年内を目途に事務局まで寄せていただけるよう、ぜひ、ご協力をお願いしたい。協議事項1について、その他よろしいか。

【委員】

(一同、異議なし)

(2) 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について（資料2）

【事務局】

地域公共交通計画の策定にあたって、国の地域公共交通確保維持改善事業費補助金の交付を受けている。本計画の策定が適切に実施されているか、知多市地域公共交通会議で一次評価をするもので、協議が調った一次評価の資料を国に提出し、令和7年2月に二次評価を行う。本日、資料2-2を基に一次評価を行い、後日、二次評価で使用する資料2-3の内容の書面協議でご確認いただきたい。

- ・事業の結果概要は、現状整理分析として、市の現状整理、上位関連計画等と本計画の位置づけの整理、地域公共交通の現状分析及び各種ニーズ調査を行った。
- ・事業実施の適正性は、概ねスケジュール通りに実施できており、期限までに事業が完了する見込みである。
- ・計画策定に向けた方針は、①現状整理・分析、②各種ニーズ調査、③地域公共交通計画（案）の取りまとめまで取り組み、④法定協議会の運営として地域公共交通会議を年3回程度開催し、計画策定に向けて協議を行う。
- ・資料2-2の、別添1及び別添1-2の様式については、一次評価の資料として提出する。
- ・資料2-3については事務局で案を作成し、書面協議で承認後、1月中旬までに国に提出する。書面協議の資料は後日お送りする。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

資料２－２の事業はまだ全て終わっているわけではないため、見込みで記載している。
資料２－３は書面協議になるが、どのような記載内容を想定しているか。

【事務局】

各種の調査ニーズの取組内容、現状整理について、これまでに取りまとめた内容を記載する。また、調査から明らかとなった結果、その結果をどのように反映していくかということもまとめて作成したいと考えている。

【副会長】

資料には、地域公共交通計画の策定理由、調査結果をどのように計画に反映していくかなどを記載し、皆様に書面でご確認いただきたいと思う。協議事項２について、その他よろしいか。

【委員】

（一同、異議なし）

３ 報告事項

(1) コミュニティ交通あいあいバスの車両更新について（資料３）

【事務局】

- ・現在使用しているあいあいバスの車両が耐用年数の目安の10年を迎えるため、安全な運行に支障がでないよう車両更新を行う予定。運行している車両は全３台。規格は全てディーゼル車「日野ポンチョ」で、乗車定員35名の２ドアタイプ。
- ・北部循環コース系統１の車両は平成27年５月から導入しており、９年半を経過している。北部循環コース系統２と南部コースの車両は平成28年10月から導入しており、８年を経過している。
- ・北部循環コース系統１の車両は、令和７年10月頃に更新を予定している。北部循環コース系統２と南部コースの車両は、導入後10年を迎える令和８年10月を目安に更新を

検討している。

- ・北部循環コース系統1の車両は、現行のディーゼル車からEV車への更新を検討中。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

他の自治体でもEV車の導入が進んでおり、実績も出てきている。利用者の方に迷惑がかからない形で準備を進められたい。

(2) 東浦町コミュニティバス（う・ら・ら）の知多市内への乗り入れに係る運賃協議の結果について（資料4）

【事務局】

- ・東浦町コミュニティバスについて、令和6年10月1日のダイヤ・ルートの改正に伴い知多市へ乗り入れを行うため、その内容について事前にお諮りし、この度乗り入れに必要な協議が調ったので、本日はその結果を報告する。
- ・路線の乗り入れ（乗合旅客の態様）に係る協議については、第1回の知多市地域公共交通会議において既に承認された。
- ・運賃・料金等に係る協議については、道路運送法により運賃料金協議会における協議が必要なため、改正にあたり影響のあった大府市、知多市、東浦町の合同運賃料金部会により書面協議を行った。
- ・令和6年度第1回大府市及び知多市及び東浦町地域公共交通運賃料金協議会を書面により開催し、承認された。また、運賃協議が調ったことの証明書については、東浦町地域公共交通会議に送付済み。
- ・路線の乗り入れに当たっては、相互利用の促進として、回覧チラシで巽ヶ丘駅周辺の町内会に地区回覧を行ったほか、知多市と東浦町の双方のバス停に乗り換え案内のチラシを掲示するなど、利用促進に向けた周知を行っている。

<主な質疑、意見等>

【委員】

知多乗合(株)では自主路線で団地をつなぐ路線を巽ヶ丘駅に結節しており、その路線と今

回改正された東浦町コミュニティバス藤江線、新田線は全く同じ区間を走る状況になったため、バス停を共通化し、路線バスの運賃も100円に統一した結果、便数がかなり増えた。また、東ヶ丘団地線でも交通系ＩＣカードを利用できるようになったため、利便性が向上した。

(3) 令和６年度（地域間幹線系統）補助系統別事業評価票について（資料５）

【事務局】

あいあいバス北部循環コースは、市民の生活を支える複数市町をまたぐ地域間幹線系統として、地域間幹線系統確保維持費国庫補助金の交付を受けている。この度、令和６年度の事業評価票を作成し、愛知県公共交通協議会に提出したため、内容を報告するもの。

- ・利用実績は、年間利用者数の目標値57,000人に対し、66,039人の利用があり、目標を達成した。
- ・市町村を跨ぐ利用者数は、月1,381人と推定しており、主に東海市にある公立西知多総合病院と阿久比町にあるカネスエ阿久比店の利用が多いと考えられる。
- ・利用促進の取組としては、年に１回、関係市町との情報交換を行っているほか、双方のバスの時刻表を配架している。また、バスの利便性向上のため、令和６年３月にバス停を２箇所新設し、既存のバス停と同様に新設したバス停にバスロケーションシステムのアクセス用ＱＲコードを掲載した。
- ・今後の課題については、利用者数は増加傾向にあるものの、利用者全体の約60％が無料利用分となっており、収支率の改善には至っていないという点が挙げられる。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

結論として、目標は達成できている。今後の課題として、無料利用者が多いので収支率の改善に努めるとしているが、高齢者の方々に気軽に歩けるような環境を作る目的で無料あいパスを導入したため、収支率の改善というのは諦めざるを得ないのではないかと。両方狙うというのは難しいと思う。

【事務局】

収支率の改善という記載は再度検討する。学生や他の方に向けた利用促進には努めていきたい。

【副会長】

国の方針は収支率の改善を目指すこととなっているが、無料あいパスの効果で多くの方に利用いただけるので、政策目標は達成できていると思う。記載は事務局にお任せする。

4 その他

【事務局】

事務局より3点報告したい。

●エコ通勤デーについて

愛知県では11月14日から12月13日までを「エコモビ実践キャンペーン」の期間としており、来週12月4日水曜日は県内一斉エコ通勤デーである。本市では、県内一斉エコ通勤デーにあわせ、職員に対してエコ通勤の協力を呼び掛けている。委員の皆様にも可能な範囲でぜひエコ通勤を取り入れていただきたい。

●まちの先生講座について

10月31日、知多翔洋高校から依頼を受けている「まちの先生講座」に外部講師として市民協働課が参加し、公共交通に関する講座を実施した。

当日は30名の生徒を9グループに分け、各グループでバスを利用して市内を観光するモデルコースを考えてもらった。受講した生徒のほとんどがバスを利用したことがなく、路線ごとのダイヤ表の見方に戸惑っていたが、教育用のタブレットを活用しながらルート検索などを行ってもらい、市の観光地、バス路線について学んでもらった。

受講後には意外と市内にバスが走っていると感じたというコメントをいただくなど、高校生目線の意見をいただくことができ、授業をする側も勉強になった。

●今後のスケジュールについて

協議事項1と2でご説明したとおり、二次評価の発表資料については、地域公共交通

会議で書面協議を行った後、国へ提出する。準備が整い次第、委員の皆様に協議資料をお送りするので、ご対応をお願いしたい。

次回、お集りいただく会議は来年３月頃に開催を予定している。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

知多市はエコ通勤デーに何か取り組んでいるか。

【事務局】

市の職員にエコ通勤デーの実施のPRを行っている。昨年度から始めたアンケート調査により、昨年度と今年度の参加状況を比較したいと考えている。

【副会長】

とても良いと思う。どんどん宣伝して、市役所でもこの日は公共交通で通っているというアピールをして、その上で周辺の企業にも協力いただきたい。

岡崎市ではエコモビの一環で、12月に２日間、公共交通で通勤しようということを全庁的に呼びかけている。また、その日は市内の飲食店が割引のようなことを一緒に実施していたと記憶している。公共交通なら気軽にお酒を飲むことができるので、市内にお金を落としてもらうための取組を実施するなど、更なる発展に向けて取り組んでいただきたい。

【委員】

前向きに住民のために考えていただいていることは、本日出席してわかった。経済的な視点も持ちながら、何とかこのまちを盛り上げる方法を考えたいと思う。

【副会長】

計画を策定するに当たって覚えておいてほしいのが、公共交通の将来は決して明るくはない。しかし、少なくとも知多市は良くなりそうだと市民の方々に期待をしてもらえような計画を皆でつくっていききたい。

【委員】

南粕谷コミュニティは知多市の南側に位置しているので、東浦町や東海市と連携しているのであれば、常滑市とも連携していただきたい。

【委員】

市の南側のコミュニティで、名鉄まで車で移動して9分程度で行けるが、徒歩だと50分かかるため、バスなどがあると多少は楽だと思うが、周りが閑散とした住居ばかりなので、今回の資料の人口密度とカバー図を見ると仕方がないか、というのが感想でした。

【副会長】

諦める必要はなく、資料1－3の最後を見てもらうと、自動運転バスやグリーンスローモビリティデマンド交通など、バスだけでなくタクシーの活用や少量輸送の新しい交通手段も出てきている。

公共交通計画の中でどう位置付けられるか、皆で協議しながら、諦めずに自分たちの生活が便利になるような絵を描いてもらいたい。

その他、意見等無し。会議終了。